

味は只大體の説明にとりてなさしめたり  
此他に保育要項によらずして練習し又幼児の  
只聞覚えのまゝなるものを多少訂正して歌は  
しめたるは左の如し

電車唱歌

牛若丸

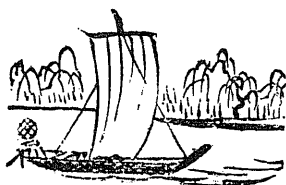
一寸法師

アルハベツト歌

我等の園生(春夏秋冬)

ひなまつり

戦友



## 妻の方針

某

女

三十二

女は常に子供の爲には犠牲となりて、家庭の教育に従事すべきものであります。子供は両親の子であると同時に、一方より見れば國家より預りあるものでありますから、家庭にあつて子供を教育するは國家に對する婦人の義務であると云はねばなりません。

子供を教育する方針に就て種々の書物や雑誌に色々の事がありまして、妾共は大に迷つて居ります。因てあまり差出がましくあります。妾の経験したる事どもを左に一應申述べますから、何卒存分の御批評を願ひます。

先づ第一に起る問項は、緩にすべきか、嚴にすべきかと申すことであります。從來妾共の成長する時代は非常に嚴格なる家庭に育ち、何事にも命之れに従ふといふ風にて只びく／＼いたして居りました。従て其餘力は必らず他方面に表はれ、さて

とにお恥しき次第ながら私共も人の見て居らぬ時は女に似氣なき惡戯をした事もあり申す、併し妾は追々物心の附くに従ひ、これにてはならぬ事と思ひ、その嚴格の家庭に喜んで服する様につとめました、けれども、今になつて考へて見るに、餘程卑屈の様な事があつて、自分ながら感心しました、そこで自分の子供は、斯る教育をなすまいと思つて居る中に、彼の活動主義とかいふ教育法が廣く我邦に行はれて來ました、之れこそ妾の考と一致したる事と思ひ、直にその主義を家庭會議に附し、無事に通過しまして即日より勵行しました、さなきだにわばれ盛りの子供の事なれば大喜びにて、從來妾共の大に遺憾に思つて居つた、家庭の快樂といふ事は充分に得られ、従つて子供もめき／＼發達いたし、卑屈とか因循とかいふ風は少しもなく、自分で思ふ事はどんな誰の前にてもいふ様になり、妾初め喜び、この分にて發達して行かば先づ安心であると思ひました、然に一失は數の免かれざる所でこの結果初め活潑たりし子供は亂暴となり、規律などの事は少しもなく

なり、自分の思ふ事は理由もなく方法もなく只々貫徹するものと思ひ「そんな事はいけぬ」と云へば、直に立腹いたし、妾共の前は申すに及ばずや祖父母の前にも、甚だしき亂暴をばいたし少しも悪い事とは思はず、その責任者たる妾は赤面の次第で、又々茲に家庭の快樂が殺がれ、家庭にてかゝる有様なれば、學校等の如く多人數の集合する場所にては、かゝる下規律のものあるために咄々御迷惑のあることと思ひます、併し妾は何處までも非常なる嚴格の家庭は、自分の經驗や人の話にて好ましからぬ事と思ひ、大凡次の如き方案をたて之が現今妾の子供の躰方の主義となつて居ります。

此の活動主義といふのは、前に言つた様な利益と不利益とがありその利點も確に効果のあるものであれば、中々棄てがたきものであります。つまり此の主義の欠點とする所を除き去れば後には得點のみ残る譯であります、尤もその欠點は妾共の經驗によれば、不規律なる所であると思ひます、この主義にて規律さへ立たば先づ完全に近きものと

思ひ、其後は専ら規律を立つる事に勉めて居りました、然るに一度附きたる習慣は中々矯正するところが出来ず、非常に困難を感じました、依て初めは單に「規律」といふものはこんなもの「規律なければ社會國家又は一家すらも成り立たぬもの」といふ事を、子供の最も機嫌よき時や、又は學校にて學びたる事を家庭にて話す折に夫等の材料に出逢たる時に懇々話しましたが、遂には子供ながらに感心して聞きました、夫れからや々望みを起して、規則一ヶ條を設け、將來は必ず實行する様に申附けました、之は其の當時にても全然犯したるにはあらず、時々破ることのある規律にて、至つて簡單なものでありました、然るに全く其の目的を達する様になりました、夫から益々望みをえて急激にすることを尤も注意して、自分ながら可笑しきほど徐々に規律を設けました。併しこの簡單なる規律であつても、若し犯すことがあれば、如何なる時と、如何なる場合とによらず、必ずらず訓戒をなしてその非を悟るまでにいたしました、此の場合にも必ず怒る如き事なき様にいたし、

随分面倒でありましたが、之も一家のため且は國家のためと思ひ我慢いたしました、世間では多くは子供を大人の様に思ひ、子供が悪戯をしても大人の如く見做しこれと喧嘩いたすものもありすけれども、之は甚だしき誤で教育のため大に嘆ずべき次第と考へます。

元來教育といふものは、面倒のものと思ひるより外はありません、以上述べました通り、徐々に進む事と、設けたる規律は必ず斷行する事との二つの條件の下に、面倒なる事を忍びて躡けいたしましたが、先々今日の所大體差支なき様になり、以上の欠點は殆んど除き去ることを得て、大に規律正しくなり、且つ其規律も喜んで守り、命令したる事も決して嫌がる様の事もなくなりました。従つてこの主義の得點とする所も失はず、此頃迄の家庭は殆んど春の如くになりまして、又依然いきどついたし、活潑に生ひ立つて居ります、併し一度着きたる癖は全く抜けぬもので、時々前の活動主義の欠點が表出されて、實際無理とは思ひながら叱る事もあります、之も子供には少しも罪なく

全く妾の不江意より起ることで、誠に子供に對し  
 申譯のなきことであります。之につけても子供は  
 初めの躰の尤も肝要であることに氣づきました、  
 就ては妾どもにもまだ乳呑兒もありますから此等  
 の子供の躰方は前申上ました主義で父母は自分を  
 大切に於て下さる愛情深き方なれど去りとして我儘  
 なる不規律は到底出来ぬものと思はしむる様にい  
 たしたい、しかし茲に一つの困難なる事がありま  
 す、夫は今日の社會は一般に不潔な事でありま  
 す、子供の見るもの開くもの學校と注意の屈きた  
 る家庭以外にては、大体ためにならぬ惡しき事ば  
 かりで、折角骨折して子供によき習慣をつけまし  
 ても、僅か一兩日の中に破らるゝ事があります、  
 さりとて内々學校と家庭以外を見せぬといふは、  
 主義を實行する上に大なる障害を生じます、此點  
 に於ては實際うまい考へがありません。  
 右は用だ女の身として差出がましき様なれども聊  
 か妾が經驗の一斑を記して讀者諸君の御批判を乞  
 ひ、家庭の教育法につき、よき手段と方法とを承  
 はりたいのであります。

## 孤兒教育の一斑

樂 天 子

文明の程度低く、徳義の觀念薄かりし時代に於て  
 孤兒養育の大事業を経営したることは、經營者の  
 頗る困難を感じしことならんも、我國の慈善事業  
 としては、割合に古き歴史を有し、他の慈善事業  
 に比較しては割合に發達せるは、孤兒養育事業な  
 り、然れども、吾人は孤兒の教育の點に於て、多  
 少遺憾の感なき能はず、そは各經營者の多くは孤  
 兒をして早く自活せしむるを目的となし教育を然  
 り視し居ることなりとす、孤兒養育事業としては、  
 年數に於て相當の經營を有し、設備に於て全國有  
 數と稱せらるゝ團體に於てすら、兒童の教育は高  
 等小學程度を最上限となし、高等の教育を等閑  
 し居るは爭ふべからざる事業なり、全國の各慈  
 善團體中現今收容の孤兒を官私立學校に通學せし  
 め、中等教育を授け、若しくは團體院内に於て  
 同程度の教育をなし居る團體は百余の團體中總か